

指導例 1

SNS教育プログラム レッスン3 学習指導案

1 単元名 ネット社会でどのような行動をとるか考える

2 本時のねらい

- (1) インターネットやSNSの利用に関する問題点について話し合うことをとおし、適切な利用方法について考えることができる。
- (2) 情報モラルの必要性を自分たちで考え、守ろうとする規範意識を高める。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (15分)	- 授業のねらいを確認する。 4人のグループを10班作る。 - 教材「デジタルネイティブの君たちへ」を読み、Aさん、Bさん、Cさんの事例の課題を話し合い、共通する課題を確認する。	- 授業中の他者の考えについて、こまめにメモをとるように伝える。 - これまで学んだインターネットの特性（公開性、記録の継続性、文字によるコミュニケーションに頼っていること、匿名ではないことなど）について確認する。
展開 (20分)	それぞれの班で共通の事例が記されている「相談対応シート」を受け取る。	各班にトラブル事例が記された「相談対応シート」を配付する。（シートに記されている事例は班毎に異なる。）
	指示：シートに記載してあるSNSトラブルについて相談を受けたら、どのように答えたら良いかをグループで考え、「相談対応シート」に記入しよう。 （話し合い活動） 新しい5人のグループに分かれ、それぞれのグループで話し合った事例への対応を発表する。発表の内容について、ワークシートにメモをとる。	①～⑩の10個の事例のうち、クラスによって事例を分けてもよい。 例) 1組は事例①～⑤を扱い、2組は事例⑥～⑩を扱う。 - スムーズに新たなグループが作れるよう、各グループメンバーに番号を付けておくなど、工夫をする。 - 授業はティーム・ティーチングで実施し、人前で話すことが苦手な生徒の意見も共有できるように支援を行う。

指導例 1

まとめ (15 分)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="343 163 885 302"> 発問：SNSの利用において、お互いにどんなことに注意するとよいでしょうか。 </td><td data-bbox="885 163 1436 302"></td></tr> <tr> <td data-bbox="343 302 885 654"> ・上記課題について班の中で話し合い、ワークシートに記入する。 ・クラス全体で発表する。 </td><td data-bbox="885 302 1436 654"> ・出された意見に対して肯定的なフィードバックを行う。 ・最後に次の3点を確認する。 ① 相手のことを想像した対応が大切であること ② 自分の行動に責任をもつこと ③ 適切な利用について自分たちで考えることが大切であること </td></tr> </table>	発問：SNSの利用において、お互いにどんなことに注意するとよいでしょうか。		・上記課題について班の中で話し合い、ワークシートに記入する。 ・クラス全体で発表する。	・出された意見に対して肯定的なフィードバックを行う。 ・最後に次の3点を確認する。 ① 相手のことを想像した対応が大切であること ② 自分の行動に責任をもつこと ③ 適切な利用について自分たちで考えることが大切であること
発問：SNSの利用において、お互いにどんなことに注意するとよいでしょうか。					
・上記課題について班の中で話し合い、ワークシートに記入する。 ・クラス全体で発表する。	・出された意見に対して肯定的なフィードバックを行う。 ・最後に次の3点を確認する。 ① 相手のことを想像した対応が大切であること ② 自分の行動に責任をもつこと ③ 適切な利用について自分たちで考えることが大切であること				

- 4 教材 絵本教材「デジタルネイティブの君たちへ」
「事例カード」「相談対応シート」
ワークシート

5 本時後の指導

授業後に、「相談対応シート」を廊下に掲示するなどして、他のクラスの相談対応シートを共有することで、この相談対応シートと、レッスン1・2の授業内容の成果を活用して、「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を生徒が主体的に作成する。以上の活動をとおして、自分たちでインターネットやSNSの問題に気づき、トラブルを回避する力を身に付けさせる。

6 実践するにあたって

(1) 概要

- ・本時の授業はレッスン3としての位置付けだが、今後「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を生徒が主体的に作成することを目指している。そのために、生徒が情報モラルの必要性を自ら感じ取り、主体的に行動していけるよう、生徒に今後の行動を投げかけるような授業のまとめ方ができるとよい。

(2) 基本的なスタンス

- ・導入部での「共通する課題」をうまく見つけられないグループがある場合は、事例A、B、Cそれぞれの個別の課題を先にあげさせるなど、グループワークを円滑に進めるために、教員が適切に働きかける。
- ・発表活動では、生徒が積極的に意見を述べるとともに、他の人の意見にしっかりと耳を傾ける雰囲気を醸成できるよう、教員が適宜働きかける。

(3) 工夫するとよい点

- ・作業内容とプリントの量が多いため、生徒の実態に応じて教材を精選するとよい。
- ・似たようなトラブルを経験した生徒への配慮が必要である。

事例カード

① 学校の休み時間に面白い動画が取れたので、動画投稿サイトに投稿しようと思う。マスク姿で顔が分からないから大丈夫だよね。	② 片思いしている人が、交際相手との写真を SNS で公開をしていた。別れて欲しいので、交際相手の悪口をコメントしようかな。
③ 辛いときに SNS で知り合った人が話を聞いてくれた。今度、会って話をしてくれるというけれど、会いに行こうと思う。	④ SNS で辛いことを吐き出している。鍵付きアカウントだから、実名で投稿してもいいよね。
⑤ SNS のグループで話していると、特定の人が既読するだけで発言をしない。グループから外してもいいよね。	⑥ クラス全員の L I N E グループで一人だけ誘ってない人がいるんだけど、L I N E とかに興味がなさそうだから問題ないよね。
⑦ SNS で話をしていると、話の止め時が分からず眠れない。既読スルーで相手に不快な思いをさせたくないけれど、どうしたらいいかな。	⑧ お小遣いが少なく、欲しい服が買えない。SNSでご飯を一緒に食べてくれるだけでお金をくれる人がいた。別にご飯だけならいいよね。
⑨ ネットのゲームを楽しんでいる。オフ会をしようと提案されたけれど、親は「危ないから会っちゃダメ」と理解してくれない。どうしたらいいかな。	⑩ 友達に嫌なことされたから、インスタグラムに愚痴や悪口を書いちゃったんだけど、相手が分からないように書いたからいいよね。

ネット社会でどのような行動をとるか考える

() 組 () 番 氏名 ()

【授業のねらい】

- インターネットやSNSの利用に関する問題点について話し合うことをとおし、適切な利用方法について考えることができる。
- 情報モラルの必要性を自分たちで考え、守ろうとする規範意識を高める。

【ワーク1】

Aさん、Bさん、Cさんの事例に共通する課題は何だろう。

(メモ欄)

【ワーク2】

- ① 各班に配付される「相談対応シート」に記載してある事例について話し合う。
- ② 他の事例への対応について、他者の話を聞いて以下に記入する。

事例 ()	事例 ()
事例 ()	事例 ()

【ワーク3】

SNSを利用する際、お互いにどんなことに注意すると良いでしょうか。

(メモ欄)

相談対応シート

() 組 () 番 氏名 ()

※この欄に事例①～⑩のうち、いずれか1つの事例が記入された状態で生徒へ配付します。
各グループで1つの事例を話し合います。

(例) 1・3組は事例①～⑤、2・4組は事例⑥～⑩を扱います。

カードに書かれた相談について、どのように答えますか。グループで話し合おう。

＜メモ＞グループで話し合ったことをメモしよう。

＜どのように対応するか＞相手にわかりやすく、理由も付けて書いてみよう。